

地域の子育て環境づくりに向けての保育者養成校の課題と視座  
—— 奈良県内保育所の実態調査を通して ——

前 迫 ゆ り<sup>1)</sup>      智 原 江 美<sup>1)</sup>      石 田 慎 二<sup>1)</sup>  
中 田 奈 月<sup>1)</sup>      高 岡 昌 子<sup>2)</sup>      福 田 公 教<sup>3)</sup>

Issues and Perspectives of the Professional Training College for Childcare Workers  
toward Contributing to Regional Child-Rearing Environment  
—— From the Viewpoint of Childcare Centers in Nara Prefecture ——

Yuri MAESAKO<sup>1)</sup>      Emi CHIHARA<sup>1)</sup>      Shinji ISHIDA<sup>1)</sup>  
Natsuki NAKATA<sup>1)</sup>      Masako TAKAOKA<sup>2)</sup>      Kiminori FUKUDA<sup>3)</sup>

The purpose of this study is to identify issues and perspectives associated with the education program provided by a college for childcare workers in relation to creating and developing child-raising environments. Questionnaires were sent out to all 215 childcare centers in Nara Prefecture in 2004, with the aim of investigating the present state of childcare centers, that have important function in providing suitable environmental structures for child-raising in each local community. The collection rate of the data was 42.8%. We report on the following issues based on the results of this survey: the role of community childcare support centers, child support systems, cooperation between childcare centers and other organizations, field activities for nature understanding, mental care systems, and gender issues arising in childcare centers. We also would like to discuss the possibility of the improvement of the college education reflecting the opinions and suggestions of childcare centers on child-raising environments.

Key words: childcare center, childcare worker, child-rearing environment, improvement of college education, Nara Prefecture

はじめに  
1994年12月、文部・厚生・労働・建設4省合意の元に「今後の子育て支援のための施策の基本的方向につ

いて」というエンゼルプランが示された。その後1999年12月に「保育サービス等子育て支援サービスの充実」、「地域で子どもを育てる教育環境の整備」、「子ど

---

現所属：1) 奈良佐保短期大学    2) ロンドン大学    3) 種智院大学

もたちがのびのび育つ教育環境の実現」などの内容を  
含む新エンゼルプラン ([http://www1.mhlw.go.jp/shingi/s0003/s0309-1\\_18.html](http://www1.mhlw.go.jp/shingi/s0003/s0309-1_18.html) #; 厚生労働省 2004年  
12月現在) が示され、地域の子育て環境を考える動き  
は地域レベルではもちろんのこと、国レベルでも推進  
されているところである。

本研究はそうした社会的背景を踏まえ、地域の子育  
て環境づくりに向けて、地域、家庭、現場そして保育  
者養成校の連携をよりいっそう図ることの重要性と必  
要性から、高等教育機関における保育士養成校の視座  
を探ることを目的として行われた。そのために、まず  
保育所における取り組みの現状を把握し、それらの調  
査結果を踏まえて、保育者を養成する高等教育機関が  
どのような取り組みをなすべきかという課題を明らか  
にし、大学の教科内容をより充実・発展させるための  
視座を得ることをめざした。

近年の子どもや家庭を取り巻く環境変化に対応し  
て、「保育所」の役割と機能の重要性があらためて問  
われていることから、保育所での現状把握を行うため  
「子育て支援センターとしての役割」、「子育て支援  
サービスの内容」、「保育所と他機関との連携」、「保育  
活動における自然とのかかわり」、「保育所心理的ケ  
ア」、「保育とジェンダー」などの内容に関して、奈良  
県内すべての保育所を対象に質問紙調査が実施され  
た。それら調査資料にもとづき、望ましい「子育て環  
境」とはどのようなものなのか、さらに望ましい子育  
て環境をつくるために何をなすべきかを考え、保育士  
養成校のとりくみを充実・強化させたいと考えてい  
る。本報では調査の概要を報告するとともに、地域の  
子育て環境づくりに向けての保育者養成校の課題と視  
座について若干の考察を試みた。各論については別稿  
で詳細に検討したいと考えている。

本調査に際して、奈良県内の保育所には多大なるご  
協力をいただいた。とりわけ質問紙調査に際して詳細  
なご回答・ご意見をいただき、本研究に対して深いご  
理解を賜った。記してここに厚く御礼申しあげる。な  
お本研究は「地域の子育て環境づくりに向けての保育  
者養成における可能性と将来展望に関する学際的基礎  
研究」として、2003年度および2004年度に文部科学  
省・私立大学教育研究高度化推進特別補助・学術研究

推進特別経費（研究代表 前迫ゆり）を受けて実施さ  
れたことを付記する。

## 調査方法

奈良県内の全保育所215園を対象に、アンケート調  
査（質問紙法）を実施した。アンケート調査は2004年  
2月13日に調査票を郵送、2月29日までに郵送により  
回収した。調査用紙への回答は保育所の代表の方とし  
た。有効回収率は42.8%であった。

保育所の回収対象の概要は表1の通りである。設置  
主体の内訳は公設公営73.3%、公設民営4.5%、民設  
民営21.1%、その他1.1%、回答者（所長あるいは代  
表者）年齢は28歳から81歳、平均年齢55.2歳であっ  
た。奈良県には奈良市をはじめ全46市町村に保育所設  
置されているが、回答を得たのはそのうち31市町村で  
あり、回答数をもっと多かったのは奈良市の18園、つ  
いで大和高田市と大和郡山市の7園であった。

調査内容は、I 保育所概要（保育所長年齢、所在  
地、設置主体、入所定員、地域子育て支援センター事

表1 設置主体 (N=90, %)

公設公営	73.3
公設民営	4.5
民設民営	21.1
その他	1.1

注) すべての表においてNは欠損値をのぞい  
た有効データ数を示す。

表2 認可・僻地保育所の区別

(N=91, %)

認可保育所	90.1
僻地保育所	9.9

表3 入所児定員 (N=91, %)

-30人	12.1
31- 60人	20.9
61-100人	13.2
100人-	53.8

表4 入所児年齢 (N=91, %)

0歳児	74.7
1歳児	84.6
2歳児	92.3
3歳児	98.9
4歳児	95.6
5歳児	95.6
6歳児	75.8

業実施の有無など), II子育て支援サービス(利用者来園頻度, 園庭開放, 親子あそび教室の頻度及び内容など), III他機関・団体などとの連携(連携機関の種類, 頻度および内容など), IV保育活動と自然(年齢別, 自然の活動内容および問題点, 保育における自然活動の必要性など), V保育とジェンダー(送迎保護者の性別, 男性保育士と女性保育士の役割など), VI子育て環境作りに必要な保育士養成(充実・強化が必要な教科, 保育士の資質など)である。これらは質問紙法の多肢選択法と自由記述法によって回答された。

### 結果および考察

#### 1. 保育所の「地域子育て支援センター事業」とその方向性

保育所保育指針にとどまらず, 地域の子育て支援の重要性は厚生労働省をはじめ, 諸機関で推進されているところである。しかしながら, 現状では地域拠点の1つである保育所が「地域子育て支援センター事業」を実施しているとする回答は42.8%であり, 半数以下にとどまっている(表5)。

保育所側がよりよい子育て環境をつくるためにどのような方向をめざしているかについて, 児童健全育成

表5 地域子育て支援センター事業実施の有無 (N=89, %)

実施	42.7
実施せず	48.3
そのほか	9.0

財団による健全育成の5項目(子どもの身体・健康増進をはかる, 子どもの心の健康増進をはかる, 子どもの知的な適応能力を高める, 子どもの社会的適応能力を高める, 子どもの情操を豊かにする), 子育て家庭の支援に関する3項目(子どもを虐待等から保護する, 在宅子育て層への支援をする, 親の仕事と育児の両立を支援する), 地域に開かれた施設に関する項目(地域福祉の拠点としての役割を果たす)の9項目を取りあげた(複数回答)。

その結果, 子どもの身体・健康増進をはかる, 「子どもの心の健康増進をはかる」, 「子どもの情操を豊かにする」の項目についてはいずれも80%以上と高い割合を占めており, 子どもに対する保育について重要視していることがわかった。子育て支援に関しては, 「親の仕事と育児の両立を支援する」が86.8%と高い割合を占めている一方, 「子どもを虐待等から保護する」, 「地域福祉の拠点としての役割を果たす」, 「在宅子育て層への支援をする」の項目についてはいずれも50%前後にとどまっている(表6)。

これは保育所における子育て支援の第1の側面である就労と子育ての両立支援については保育所の意識が高いが, 第2の側面である地域子育て支援については各保育所の意識が必ずしも高くないということであり, 地域に開かれた児童福祉施設をめざす保育所として, 前向きに地域子育て支援センターとしての取り組みを行っている保育所はあるものの, 数値的には地域に十分対応しているとはいえない状況であった。これ

表6 保育所がめざす方向性(複数回答; N=91, %)

子どもの身体・健康増進をはかる	89.0
子どもの心の健康増進をはかる	86.8
子どもの情操を豊かにする	86.8
親の仕事と育児の両立を支援する	86.8
子どもの社会的適応能力を高める	74.7
子どもを虐待等から保護する	52.7
地域福祉の拠点としての役割を果たす	51.6
子どもの知的な適応能力を高める	49.5
在宅子育て層への支援をする	42.9

らは「健全育成」項目に力が注がれている一方、虐待といった顕在化しにくい問題へのとりくみや把握にはまだいたっていないという側面を示唆する。

## 2 子育て支援サービス — 園庭開放, 親子遊び教室, 育児相談 —

子育て支援サービスとして、保育所はどのようなサービスを提供しているのかという視点から、保育所が実施する育児相談、園庭開放、親子遊び教室についてたずねた。その結果、80%の保育所がなんらかのサービスを実施していることが明らかになった(表7-表8)。「園庭開放」や「親子遊び教室」について、実施の有無と頻度をたずねたところ、園庭開放については76.3%、親子遊び教室では47.1%の保育所が実施していた。またその頻度は随時とする園がもっとも多く(22.6-30.4%)、数字は若干低いものの、柔軟な対応をしていることがうかがえる。

育児相談の実施状況について、来園育児相談を随時実施している保育所は40%、週1回13%、月1回14%、半年1回5%、年1回1%で、まったく実施し

表7 園庭開放の有無と頻度 (N=80, %)

実施していない		23.8
実施している		76.3
頻 度	随 時	30.4
	週 1 回	24.6
	月 1 回	42.0
	半年に 1 度	1.9
	年に 1 度	0.0

表8 親子遊び教室の頻度 (N=92)

実施していない		52.9
実施している		47.1
頻 度	随 時	22.6
	週 1 回	16.1
	月 1 回	32.3
	半年に 1 度	22.6
	年に 1 度	6.5

ていない保育所が約19%であった(表9)。さらに「貴保育所には、育児相談室の有無」を尋ねたところ、専用の育児相談室を確保している保育所は全体の約14%に過ぎず、保育室を利用しているところが約28%で、全く相談室のないところが約50%にもものぼった(表10)。悩みを持った養育者が他人の目を気にせずに安心して気軽に相談をできる場を確保しておくことは大事であるが、相談室のない保育所が約半数もあった。心理的安全が確保できない場で、深刻な家庭内での育児に関する悩みを相談できる養育者がどれ程存在するだろうかと考えさせられる結果といえる。さらに「子育て支援実施にあたり次の施設や機関と連携をとる必要があるか。」という項目で、5段階での評定を求めた。その中で特に子どもの心理的ケアに関わる「児童相談所」との連携の必要性は平均4.4で、「保健所・保健センター」との連携の必要性は平均4.6であり、連携の必要性を高く評定していた。

以上のように、多くの保育所が子育て支援サービスを実施している。しかしその反面、スタッフがいない(50.0%)、財源がない(36.2%)、「事故への対処に困る(32.8%)」などの切実な問題点をかかえていることも示された(表11)。

表9 育児相談の形態別頻度 (%)

	来園育児相談 (N=89)	電話等の育児相談 (N=81)
随 時	43.5	49.4
週 1 回	14.1	2.5
月 1 回	15.3	2.5
半年 1 回	5.9	1.2
年 1 回	1.2	1.2
実施せず	20.0	43.2

表10 育児相談室の有無 (N=89, %)

相談室確保	14.6
保育室などを利用	28.1
相談室なし	50.6
その他	6.7

## 地域の子育て環境づくりに向けての保育者養成校の課題と視座

表11 子育て支援サービス問題点  
(複数回答；N=89,%)

スタッフが少ない	50.0
財源がない	36.2
事故への対処に困る	32.8
場所がない	31.0
時間がとられる	24.1
人が集まらない	19.0
その他	19.0
専門的知識がない	13.8

本項と関連する、運動遊びおよび親子遊びに関する支援については智原ほか（2004）に、保育所と関係機関との連携による地域での心理的ケアについては高岡

ほか（2004）に詳しく述べる。

## 3 子育て支援サービスにおける保育所と他機関・施設との連携

地域の機関や団体との連携に関して自由記述法で質問し、56園（60.9%）から回答が得られた。選択肢による結果は表12に示す通りである。保健所、福祉事務所、児童相談所など公的機関との連携意識が高く、子ども会や婦人会など地域組織との連携意識は低いことがうかがえる。しかし自由記述ではそうした地域との連携の重要性は述べられており、保育所における連携については多くの保育所が必要と考えており、「保育をよりよい環境の下に行い、子どもたちの健やかな成長を願う意味で、各種団体と連携を持つことは欠くことの出来ないものである」といった意見が述べられ

表12 連携他機関・施設に対する保育所の意識 (%)

機 関	N	必要ない	どちらかとい えば必要ない	どちらとも いえない	どちらかとい えば必要	必 要
保健所・保健センター	N=80	1.3	0.0	7.5	25.0	66.3
福祉事務所（家庭児童相談室）	N=77	1.3	0.0	11.7	22.1	64.9
児童相談所	N=80	3.8	0.0	11.3	21.3	63.8
医療機関	N=77	3.9	0.0	3.9	28.6	63.6
地域にある別の保育所	N=77	2.6	2.6	11.7	27.3	55.8
小学校	N=77	3.9	3.9	13.2	23.7	55.3
警察	N=76	7.0	2.8	23.9	21.1	45.1
民生委員・児童委員	N=78	1.3	3.8	16.7	34.6	43.6
幼稚園	N=66	3.0	7.6	25.8	25.8	37.9
社会福祉協議会	N=67	10.4	4.5	26.9	20.9	37.3
育児サークル	N=72	6.9	2.8	31.9	25.0	33.3
中学校・高等学校	N=66	15.2	10.6	25.8	19.7	28.8
町内会・自治会	N=72	8.3	6.9	25.0	31.9	27.8
老人クラブ	N=69	4.3	5.8	29.0	36.2	24.6
図書館	N=63	11.1	6.3	46.0	20.6	15.9
保育士養成校	N=62	12.9	14.5	40.3	16.1	16.1
子ども会	N=65	13.8	15.4	44.6	13.8	12.3
婦人会	N=65	16.9	13.8	43.1	13.8	12.3
小学校PTA	N=67	13.4	17.9	43.3	14.9	10.4

た。

その一方で、保育所における連携の課題や今後のあり方に対して、連携の困難さ、市町村との関係、地域への啓発、地域の人々の協力の4点が抽出された。

### (1) 連携の困難さ

「当園では保育内容の充実をめざしているところで、まだまだ必要な所との関わりを持つところまで余裕がないのが現状」、「連携の持ち方について難しさを感じる」、「子育て支援センターというような中心となる施設がないため、子どもに関係するほとんどの施設において独自に子育て支援を様々な形で行っている。連携が出来ていない現状の方が多い」、「ネットワークを作り、問題が起こった時の連携体制はとれているものの、日常的な事ではなかなか連絡を取り合えていないのが実態」などの回答（自由記述式）が得られた。これらは各保育所において連携の必要性が高まっている一方、実際に連携を図っていくうえで、子どもに対する保育内容の充実とのバランスや連携の方法において困難を感じていることを示唆する。

### (2) 町村との関係

「児童福祉課の長とも連携をとり、必要に応じて利用できる体制はとっておく」、「現在まで大きな問題はなかったが、市福祉部保育課とは密接に連絡を取り合って指導をいただいている」といった市町村の担当部局との連携を重要視する回答（自由記述法、以下同様）が寄せられた。その一方、「上層部のほうでは文科省に属する幼稚園のほうに力が入っているように思われる」、「保育所という施設設置において、軽視されているように思われてならない」といった指摘もあり、市町村の担当部局・担当者のあり方が保育所にお

ける連携のあり方にも影響を与えていることが示唆された。

### (3) 地域への啓発

「地域の中で育つという観点に立って、できるだけいろいろな人とかかわりがもてるよう、また、保育所の事もできるだけいろいろな人に知ってもらえるようにすべき」、「子育ての重要性をもっともっと理解してもらえるような働きかけは重要」などの回答が得られた。このことから連携を図っていくために保育所の活動や子育て支援の重要性を地域住民に向けて啓発する必要性を感じていることがうかがえた。

### (4) 地域の人々の協力

「地域の中にある保育園であり、地域の方の協力も大きいものがある」、「地域の方も巻き込んだ子育て」、「地域の方との交流も行っている」というように地域の機関や団体との連携だけでなく、地域の人々と連携を図っていくことが重要であるとする指摘があった。

なお保育所におけるソーシャルワーク援助については石田ほか（2004）に詳しく述べる。

## 4 子どもと自然のかかわり

「子どもが自然環境に親しみ、生物のしくみの不思議さや生命の育みを感じることは保育にとって大切か」という問いに対して、93.0%が「とても思う」と回答しており、2.3%が「やや思う」、4.7%が「ふつう」となっており、「あまり思わない」や「まったく思わない」は0%であった（表13）。さらに「保育士養成校において自然環境や生物への理解をさらに深める授業が必要か」という問いにたいしても、73.6%が「とても思う」、14.9%が「やや思う」としており、

表13 自然への理解・生命の育みの大切さと保育活動（%）。「1. 保育活動と自然理解：自然環境に親しみ、生物のしくみの不思議さや生命の育みを感じることは保育にとって大切か」。 「2. 自然に関する授業の必要性：保育士養成校において自然環境や生物への理解をさらに深める授業は必要か」。

項目	N	とても思う	やや思う	ふつう	あまり思わない	まったく思わない
1. 保育活動と自然理解	N=86	93.0	2.3	4.7	0.0	0.0
2. 自然に関する授業の必要性	N=87	73.6	14.9	9.2	2.3	0.0

子どもにとっての自然とのかかわりの重要性や保育者の自然・生物理解に対する必要性を保育所が強く望んでいるという回答が得られた(表13)。

「自然とかかわる活動を実施するにあたって、保育士養成校に望んでいること」にたいしての回答(自由記述式)は、58.7%の保育所が回答を寄せており、自然活動にたいしての関心度が高いことがうかがえた。具体的に取り組んでいる自然活動(20項目)として上位を占めたのは「園周辺域での自然観察(90.9%)」、「園庭で草花を育てる(87.5%)」、「昆虫飼育(86.4%)」、「芋掘りやイチゴ狩りなど(84.1%)」、「草花遊び(83.0%)」、「園庭内自然観察(79.5%)」などであっ

表14 自然・生命などに関する保育活動内容  
(複数回答; N=88, %)

活動	実施頻度
園周辺域での自然観察	90.9
園庭で草花を育てる	87.5
昆虫の飼育	86.4
芋掘りやイチゴ狩り	84.1
草花遊び	83.0
園庭内での自然観察	79.5
児童公園での活動(散歩含む)	72.7
園庭での果樹や野菜の栽培	65.9
自然教材による作品制作	64.8
田畑での農作業体験	60.2
昆虫採集	47.7
森の自然探求	44.3
動植物園にでかける	43.2
小動物との関わり(ウサギなどの世話)	37.5
動植物のスケッチ	31.8
川遊び	18.2
自然と親しむための園独自のプログラム	12.5
山登り	11.4
ネイチャーゲーム	5.7
野外活動はとくにしていない	4.5
そのほか	1.1

た。一方、「ネイチャーゲーム(5.7%)」、「山登り(11.4%)」、「自然と親しむための独自プログラム(12.5%)」、「川遊び(18.4%)」は低い数値を示した(表14)。

保育所での保育活動において生物や自然にたいしてのとりくみは観察、飼育、栽培、体験というさまざまな視点から実施されているものの、フィールド(保育所外)に出るような自由度の高い自然活動や独自プログラムについてはあまり実施されていないことがうかがえた。この背景については、子どもの安全確保の問題や保育士の自然に関する理解が十分ではないなどの問題点があげられている。

子どもの心身の成長において、生物へのいつくしみや理解、自然への興味が大きな意義をもつ(横井, 1998; 保育所保育指針, 1999; 福岡, 1999; 今泉・マイザー 2003; 河合, 2003)。しかし、大学生の自然にたいする興味や認識は希薄であるという傾向がある。大学カリキュラムで実施されたフィールドワークは自然観や生命観を育むために有効であることが、これまでの研究で示唆されている(田羅正伸, 1998; 前迫・菅沼, 2000, 前迫, 2002)ことから、今後、保育現場で、子どもたちの生物や自然とのかかわりに寄与しうるプログラムを実施できる保育士の養成に向けて、大学での自然環境教育の推進をはかりたいと考えている。年齢別の保育所における自然活動などのとりくみに関しても保育園から、詳細な回答を得ており、保育園における自然活動については別稿で述べたい。

## 5 保育とジェンダー

保育所保育指針によると、保育士は乳幼児に「性別による固定的な役割分業意識を植え付けることのないように配慮すること」が求められている。そこで子どもにひとつの環境状況を作り出す保育士の性別について、保育所はどのような考えをもっているのかという視点から、男性保育士の勤務状況と男性送迎率についてみると、男性保育士の勤務経験のある保育所は34.1%であった(表15)。また、88.7%の保育所が、男性の送迎は3割以下と回答した(表16)。これらから子どもの送迎をする保護者の性別と、男性保育士の勤務との関係について解析すると、男性保育士の勤務

表15 男性保育士の勤務 (N=91, %)

現在勤務	22.0
過去に勤務	12.1
勤務なし	65.9

表16 男性の送迎率 (N=88, %)

1割	33.0
1-3割	55.7
4-6割	11.4
7割以上	0.0

経験のある保育所は、そうでない保育所に比して、子どもの送迎をする保護者のうち男性の割合が高いことが示唆された。なお男性保育士の実態と課題については中田ほか(2004)に詳しく述べる。

## 6 保育士養成校の教科内容の充実と必要とされる保育士のあり方

「保育士養成校において充実、強化の必要性があると思う教科」を、本学カリキュラムから抜粋した33教科から5教科選択で得られた回答によると、選択頻度の高い教科は、「発達心理学 (45.6%)」、「保育内容人間関係 (38.0%)」、「保育実習 (38.9%)」、「障害児保育 (33.3%)」、「小児保健 (31.1%)」などであり、保育

原理、小児保健、小児栄養、乳児保育、障害児保育、保育内容環境、子どもと自然なども比較的高い数値を示した。一方、選択頻度が低い教科は、「社会福祉 (1.1%)」、「公的扶助論 (2.2%)」、「教育原理 (3.3%)」、「社会福祉施設運営管理論 (3.3%)」などであった。基礎技能は「基礎技能音楽 (10.0%)」、「基礎技能造形美術 (4.4%)」、「基礎技能体育 (6.7%)」で、いずれも低い傾向にあった。(表17)。

社会福祉、公的扶助論など保育所と直接的関連が深いと思われる教科に対する選択頻度は意外に低いものであり、子どもの心身の発達や乳幼児の身体についての理解、自然への理解など、人間や自然にたいする理解を深めるための基礎をしっかりと学ぶ教科の充実を望んでいるという傾向が得られた。数値のみでの安易な判断は避けるべきであろうが、前者のような福祉関連の理解については保育現場で長期的に培われるものであり、後者のような心理、自然、人間、小児保健をキーワードとするような教科は高等教育機関において、しっかりとした基礎的理解が必要とされるという現場の要望を反映するものであるかもしれない。

「よりよい子育て環境作りを実現するために必要な保育士の資質・素養・活動など」16項目について「必要ない～必要である」までの5段階で質問した結果、「必要である」が高い比率で回答された項目は「性格・感性 (思いやり・優しさ・明るさなど)

表17 保育養成校において充実が望まれる教科 (33教科の選択肢から5教科選択). (N=89, %)

発達心理学	45.6	子どもと自然	17.8	その他	7.8
保育実習 (実地実習)	38.9	保育内容 (言葉)	15.6	社会福祉援助技術	6.7
保育内容 (人間関係)	38.9	精神保健	14.4	基礎技能 (体育)	6.7
障害児保育	33.3	児童福祉	13.5	女性労働問題論	6.7
小児保健	31.1	地域福祉論	13.3	障害者福祉論	6.7
乳児保育	28.9	レクリエーション指導法	12.2	基礎技能 (造形美術)	4.4
保育原理	23.6	基礎技能 (音楽)	10.0	社会保障論	4.4
保育内容 (環境)	23.3	保育内容 (健康)	8.9	教育原理	3.4
小児栄養	21.1	保育内容 (表現)	8.9	社会福祉施設運営管理論	3.3
保育実習 (事前事後指導)	18.9	養護原理	7.8	公的扶助論	2.2
家族援助論	17.8	教育心理学	7.8	社会福祉	1.1

## 地域の子育て環境づくりに向けての保育者養成校の課題と視座

表18 必要とされる保育士のあり方 (%)

項目	N	必要	どちらかといえれば必要	どちらともいえない	どちらかといえれば必要ない	必要ない
性格感性	N=88	95.5	4.5	0.0	0.0	0.0
技術専門知識	N=90	67.8	30.0	2.2	0.0	0.0
基本的生活習慣	N=89	91.0	7.9	1.1	0.0	0.0
熱意 (積極性・やる気など)	N=91	91.2	7.7	1.1	0.0	3.9
公平性・守秘義務	N=88	81.8	17.0	1.1	0.0	0.0
乳幼児理解	N=90	88.9	11.1	0.0	0.0	0.0
事務処理能力	N=87	51.7	44.8	1.1	1.1	1.1
状況判断能力	N=88	84.1	14.8	0.0	0.0	1.1
研究・自己研鑽の意欲	N=90	74.4	23.3	2.2	0.0	0.0
保護者とのコミュニケーション	N=89	84.3	15.7	0.0	0.0	0.0
親育て	N=86	66.3	25.6	8.1	0.0	0.0
保育士としての経験	N=85	27.1	49.4	20.0	3.5	0.0
職場のチームワーク	N=88	79.5	20.5	0.0	0.0	0.0
地域・行政との連携	N=86	37.2	48.8	14.0	0.0	0.0
子育て経験	N=84	8.3	33.3	47.6	8.3	2.4
子どもや保護者のニーズ代弁	N=82	22.9	48.2	24.1	4.8	0.0

(91.3%)」, 「熱意 (積極性・やる気) (90.2%)」, 「保護者とのコミュニケーション (96.7%)」などであった。逆に「保育士経験 (25.0%)」, 「子育て経験 (7.6%)」, 「子どもや保護者のニーズの代弁 (20.7%)」などの項目は低い数値となった。

以上, カリキュラムおよび必要とされる保育士のあり方に関する調査結果は, 保育士養成校における教科内容の強化・充実の方向性を検討するうえで, 貴重な情報を多く含むものであり, 今後, カリキュラム内容の充実をはかるうえにおいておおいに検討したいと考えている。さらに「人格・人間形成」の向上といった大学カリキュラムを越えたとりくみの必要性を示唆することから, 教科内容の充実はいうまでもないが, 大学教育全体として考えるべき「人間性を育む教育」が保育士養成校に必要とされていることを再認識したい。

## おわりに

自然環境学, 心理学, 体育学, 社会学および社会福祉学などさまざまな分野から, 保育士養成校の課題とこれからの保育士養成の視座を検討し, 大学の教科内容に反映させることをめざして本研究に取り組んだ。奈良県内全保育所においてお願いしたアンケート調査ではわれわれの予想をはるかに越える熱心な回答が寄せられ, また現場での積極的なとりくみはもちろんのこと, 保育現場における厳しい状況についても率直に回答いただいた。そのような意味において本研究は奈良県内保育所のとりくみと姿勢を知るためのきわめて貴重な資料と考えている。本研究にたいしての励ましをはじめ, 本学への要望やご意見なども多く頂いた。本稿は調査概要にとどまっておられ, 頂いた回答を上回るだけの解析や検討はまだなされていない。

しかしながら, 保育所における保育活動, 地域の子育て支援, 他機関との連携に関する現状と問題点, 子育て環境づくり, 現場で必要とされる保育士のあり

方, さらに保育士養成校に対するカリキュラムへの要望など, さまざまな課題と視座が示唆された。本調査資料を保育士養成に有効に生かすことができるような取り組みを今後, 実施したいと考えている。あらためて, ご協力いただいた保育所の皆様に深謝する。

#### 引用文献

- 智原江美・前迫ゆり・石田慎二・中田奈月・高岡昌子・福田公教. 2004. 保育士養成校における地域の子育て環境作りにつなげるカリキュラムの検討ー運動遊び・親子あそびに関する支援についてー. 2004. 奈良佐保短期大学研究紀要, 12: 45-49.
- 福岡雅行. 1999. 幼児教育と植物. プランタ, 62: 14-19.
- 今泉みね子・アンネッテ マイザー. 2003. 森の幼稚園. 合同出版.
- 石田慎二・前迫ゆり・智原江美・中田奈月・高岡昌子・福田公教. 2004. 保育所におけるソーシャルワーク援助. 奈良佐保短期大学研究紀要, 12: 9-17.
- 河合雅雄. 2003. 子どもと自然. 岩波書店, 東京.
- 厚生労働省. 1999. 保育所保育指針 平成11年改訂. フレーベル館.
- 前迫ゆり・菅沼美子. 2000. 幼児教育における「環境」領域の視座. 奈良佐保短期大学研究紀要, 8: 21-26.
- 前迫ゆり. 2002. 大学1年生の植物認識とフィールドワーク. 滋賀大学教育学部 生物学実験実習書.
- 中田奈月・前迫ゆり・智原江美・石田慎二・高岡昌子・福田公教. 2004. 奈良県内保育所における男性保育士の実態と課題. 2005. 奈良佐保短期大学研究紀要, 12: 51-61.
- 高岡昌子・前迫ゆり・智原江美・石田慎二・中田奈月・福田公教. 2004. 保育所と関係機関との連携による地域での心理的ケアについてー奈良県の保育所におけるアンケート調査をふまえてー. 2004. 奈良佐保短期大学研究紀要, 12.63-67.
- 田羅正伸. 1998. フィールド学習の意義. 理科の教育, 47: 4-7.
- 横井一之. 1998. 地域の自然を生かした教育. 一宮女子短期大学研究紀要, 37: 285-294.

## 地域の子育て環境づくりに向けての保育者養成校の課題と視座

## 資料 (調査票)

**地域の子育て環境づくりに向けての保育者養成に関する調査**

平素は本学の教育推進にご協力賜り、厚く御礼申し上げます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

さてご多忙の折、「アンケート調査」をお願い申し上げます失礼をお許しください。

この調査は、地域の子育て環境づくりに向けて、現在保育所がどのような取り組みをなさっているのか、保育者を養成する側がどのような取り組みをすべきか、その課題を明らかにすることを目的として、私学高度化教育特別研究助成を受け、「地域の子育て環境づくりに向けての保育者養成における可能性と将来展望に関する学際的研究」の共同研究として取り組んでいるものです。質問項目は、貴保育所に関するもの、子育て支援サービスに関するもの、他の施設や機関との連携に関するもの、自然と子どもに関するもの、男性保育士に関するもの等、多岐にわたっています。ご面倒な調査にご協力いただきまして誠に恐縮に存じますが、何卒よろしくお願い申し上げます。

なお、この調査は学術目的で使用されるものであり、ご記入いただいた事柄はすべて統計的に処理されます。ご迷惑をおかけすることはありませんので、どうぞありのままにお答えくださいますよう重ねてお願い申し上げます。

2004年2月12日

奈良佐保短期大学 地域の子育て環境づくり研究プロジェクト  
石田慎二・高岡昌子・智原江美・中田奈月・福田公教・前迫ゆり(研究代表)

**ご記入上のお願い**

- ・保育所の代表の方にご記入いただきたく、お願い申し上げます。
- ・アンケート用紙に直接お書き入れください。
- ・お答えは、あてはまる番号に○をつけていただいたり、該当欄に番号をご記入いただくもの、空欄や( )に具体的なご回答の内容を書いていただいたりするものがございます。
- ・ご記入後、アンケート用紙を封筒に入れ、ご郵送ください。
- ・締切 **2月29日までに** ご投函いただきますようよろしくお願い申し上げます。

**1 まず、貴保育所についてお伺いします**

問1 貴保育所所長の年齢、性別をお教えてください。

年齢 ( ) 歳                      性別 1. 男    2. 女 (あてはまる番号に○をおつけください)

問2 貴保育所の所在地はどこですか。あてはまる番号に○をおつけください。

- |         |         |         |         |         |        |
|---------|---------|---------|---------|---------|--------|
| 1.奈良市   | 2.大和高田市 | 3.大和郡山市 | 4.天理市   | 5.橿原市   | 6.桜井市  |
| 7.五條市   | 8.御所市   | 9.生駒市   | 10.香芝市  | 11.月ヶ瀬村 | 12.都祁村 |
| 13.山添村  | 14.平群町  | 15.三郷町  | 16.斑鳩町  | 17.安堵町  | 18.川西町 |
| 19.三宅町  | 20.田原本町 | 21.大宇陀町 | 22.菟田野町 | 23.榛原町  | 24.室生村 |
| 25.曾爾村  | 26.御杖村  | 27.高取町  | 28.明日香村 | 29.新庄町  | 30.當麻町 |
| 31.上牧町  | 32.王寺町  | 33.広陵町  | 34.河合町  | 35.吉野町  | 36.大淀町 |
| 37.下市町  | 38.黒滝村  | 39.西吉野村 | 40.天川村  | 41.野迫川村 | 42.大塔村 |
| 43.十津川村 | 44.下北山村 | 45.上北山村 | 46.川上村  |         |        |

問3 設置主体をお教えてください。

1. 公設公営      2. 公設民営      3. 民設民営      4. その他(      )

問4 貴保育所は、認可保育所、へき地保育所のどちらですか。

1. 認可保育所      2. へき地保育所      3. その他(      )

問5 入所児定員をお教えてください。

1. ～30人      2. 31～60人      3. 61～100人      4. 100人～

問6 定員充足率をお教えてください。

(      )%

問7 何歳の子どもが入所していますか。あてはまる年齢すべてに○をおつけください。

0歳      1歳      2歳      3歳      4歳      5歳      6歳

問8 貴保育所には保育士が何人いますか。年齢構成と性別について、あてはまる欄に人数をお書きください。

年代	男性		女性	
	正規職員	非常勤嘱託職員	正規職員	非常勤嘱託職員
20代	1.      名	2.      名	11.      名	12.      名
30代	3.      名	4.      名	13.      名	14.      名
40代	5.      名	6.      名	15.      名	16.      名
50代	7.      名	8.      名	17.      名	18.      名
60代以上	9.      名	10.      名	19.      名	20.      名

問9 貴保育所では地域子育て支援センター事業を実施していらっしゃいますか。

1. 実施している      2. 実施していない      3. その他(      )

問10 貴保育所では、よりよい子育て環境をつくるために、どのような方向をめざしていますか。

あてはまる番号すべてに○を、もつとも当てはまるものひとつに◎をおつけください。

- |                      |                    |
|----------------------|--------------------|
| 1. 子どもの身体の健康増進をはかる   | 2. 子どもの心の健康増進をはかる  |
| 3. 子どもの知的な適応能力を高める   | 4. 子どもの社会的適応能力を高める |
| 5. 子どもの情操を豊かにする      | 6. 子どもを虐待等から保護する   |
| 7. 在宅子育て層への支援をする     | 8. 親の仕事と育児の両立を支援する |
| 9. 地域福祉の拠点としての役割を果たす |                    |
| 10. その他(      )      |                    |

## 地域の子育て環境づくりに向けての保育者養成校の課題と視座

## II 次に、子育て支援サービスについてお伺いします

問11 貴保育所では**利用者が来園して行う**育児相談を実施していますか。実施している場合、その**頻度**をお教えてください。

- |       |          |          |           |          |         |
|-------|----------|----------|-----------|----------|---------|
| 1. 随時 | 2. 週1回程度 | 3. 月1回程度 | 4. 半年1回程度 | 5. 年1回程度 | 6. 実施せず |
|-------|----------|----------|-----------|----------|---------|

問12 貴保育所では、**利用者の来園を必要としない**育児相談(電話・Fax・E-mail等)を実施していますか。実施している場合、その**頻度**をお教えてください。

- |       |          |          |           |          |         |
|-------|----------|----------|-----------|----------|---------|
| 1. 随時 | 2. 週1回程度 | 3. 月1回程度 | 4. 半年1回程度 | 5. 年1回程度 | 6. 実施せず |
|-------|----------|----------|-----------|----------|---------|

問13 貴保育所には、**育児相談室**がありますか。

- |                            |                      |
|----------------------------|----------------------|
| 1. 日常使用する保育室とは別に相談室を確保している | 2. 日常使用している保育室、設備を利用 |
| 3. 育児相談室はない                | 4. その他( )            |

問14 貴保育所では**園庭開放**を行っていますか。行っている場合、**対象、頻度、内容**についてお教えてください。

- |               |                |      |
|---------------|----------------|------|
| 1. 園庭開放を行っている | 2. 園庭開放を行っていない | 問18へ |
|---------------|----------------|------|

↓ 問15～17へおすすみください

問15 頻度	1. 随時	2. 週1回程度	3. 月1回程度	4. 半年1回程度	5. 年1回程度
問16 対象	1. 保育所の子ども	2. 保育所以外の子どもを含めた未就学児	3. 就学児	4. その他( )	
問17 内容					

↓ 問18 貴保育所では**親子遊び教室**を行っていますか。行っている場合、**対象、頻度、内容**についてお教えてください。

- |                 |                  |      |
|-----------------|------------------|------|
| 1. 親子遊び教室を行っている | 2. 親子遊び教室を行っていない | 問23へ |
|-----------------|------------------|------|

↓ 問19～22へおすすみください

問19 頻度	1. 随時	2. 週1回程度	3. 月1回程度	4. 半年1回程度	5. 年1回程度
問20 対象1	1. 保育所の子ども	2. 保育所以外の子どもを含めた未就学児	3. 就学児	4. その他( )	
問21 対象2	1. 母親	2. 父親	3. その他ご家族( )	4. その他( )	
問22 内容					

↓ 問23 子育て支援サービスの実施の**問題点**はありますか。あてはまるもの**すべて**に○をおつけください。

- |             |            |              |             |            |  |
|-------------|------------|--------------|-------------|------------|--|
| 1. スタッフが少ない | 2. 時間がとられる | 3. 事故への対処に困る | 4. 専門的知識がない | 5. 人が集まらない |  |
| 6. 場所がない    | 7. 財源がない   | 8. その他( )    |             |            |  |

### Ⅲ 次に、他の機関や団体等との連携についてお伺いします

問24 子育て支援実施にあたり次の施設や機関と連携をとる必要があると思われませんか。あてはまる番号に○をおつけください。

質問項目	必要ない	どちらかといえば 必要ない	どちらとも いえない	どちらかといえば 必要	必要
1. 児童相談所	1	2	3	4	5
2. 福祉事務所(家庭児童相談室)	1	2	3	4	5
3. 社会福祉協議会	1	2	3	4	5
4. 地域にある別の保育所	1	2	3	4	5
5. 幼稚園	1	2	3	4	5
6. 小学校	1	2	3	4	5
7. 中学校・高等学校	1	2	3	4	5
8. 保育士養成校	1	2	3	4	5
9. 幼稚園	1	2	3	4	5
10. 医療機関	1	2	3	4	5
11. 警察	1	2	3	4	5
12. 図書館	1	2	3	4	5
13. 保健所・保健センター	1	2	3	4	5
14. 民生委員・児童委員	1	2	3	4	5
15. 町内会・自治会	1	2	3	4	5
16. 子ども会	1	2	3	4	5
17. 婦人会	1	2	3	4	5
18. 老人クラブ	1	2	3	4	5
19. 小学校 PTA	1	2	3	4	5
20. 育児サークル	1	2	3	4	5

問25 地域の機関や団体との連携についてどのようにお考えですか。ご自由にお書きください。

地域の子育て環境づくりに向けての保育者養成校の課題と視座

IV 次に、保育活動において、子どもが自然とかかわる活動についてお伺いします

「保育所保育指針」に示されている内容のなかでも、とくに**自然との関連性**が深い以下の内容をどのように実施されていますか。また、実施上の問題点はありますか。もつとも**主要な活動ひとつと問題点**をお答えください。

問 26 2歳児 「身の回りの小動物、植物、事物などに触れ、それらに興味、好奇心を持ち、探索や模倣などをして遊ぶ」について

1.活動内容
2.実施上の問題点

問 27 3歳児 「身近な動植物や自然事象をよく見たり、触れたりなどして親しみや愛情を持つ」について

1.活動内容
2.実施上の問題点

問 28 4歳児 「自然や身近な事物・事象にふれ、驚いたり、感動したりして興味や関心を深める」について

1.活動内容
2.実施上の問題点

問 29 5歳児 「自然事象に親しみ、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気づく」について

1.活動内容
2.実施上の問題点

問 30 6歳児「季節により自然や人間の生活に変化のあることに気づく」について

1.活動内容

2.実施上の問題点

問 31 子どもが**自然環境に親しみ、生物のしぐみの不思議さや生命の育みを感じる**ことは保育にとって大切と思われませんか。

1. とても思う    2. やや思う    3. ふつう    4. あまり思わない    5. まったく思わない

問 32 **保育士養成校において、自然環境や生物への理解をさらに深める授業**が必要と思われませんか。

1. とても思う    2. やや思う    3. ふつう    4. あまり思わない    5. まったく思わない

問 33 子どもが**自然とかかわる活動**を実施するにあたり、**保育士養成校において必要**と考えておられる具体的事項があればお答えください。

問 34 以下の内容から、**貴保育所で取り組んでおられるものすべて**に○をおつけください。

- |                           |   |
|---------------------------|---|
| 1. 森の自然探求(山だけでなく、平地の森も含む) | 2. 園庭内での自然観察                              |
| 3. 園周辺域での自然観察             | 4. 田畑での農作業体験(種まきや草引きなど。芋掘りなど収穫作業のみの場合を除く) |
| 5. 芋掘りやイチゴ狩りなど            | 6. 園庭で草花を育てる                              |
| 7. 園庭での果樹や野菜の栽培           |   |
| 8. 昆虫の飼育                  | 9. 小動物とのかかわり(うさぎや小鳥などの世話)                 |
| 10. 草花遊び                  |   |
| 11. 動植物のスケッチ              | 12. 自然教材(植物や石など)による作品制作                   |
| 13. 昆虫採集                  |   |
| 14. ネイチャーゲーム              | 15. 児童公園での活動(散歩を含む)                       |
| 16. 動植物園にでかける             |   |
| 17. 自然と親しむための園独自のプログラム    | 18. 川遊び(海を含む。プール以外)                       |
| 19. 山登り                   | 20. その他( )                                |
| 21. 野外活動はとくにしていない         |   |

## 地域の子育て環境づくりに向けての保育者養成校の課題と視座

## V 次に、保育とジェンダーについて伺います

問 35 貴保育所では、子どもの**送迎**に来られる**保護者の方**のうち、**男性**は何割ほどいらっしゃいますか。

- |        |         |         |         |        |          |
|--------|---------|---------|---------|--------|----------|
| 1. ～1割 | 2. 1～3割 | 3. 4～6割 | 4. 7～9割 | 5. 9割～ | 6. わからない |
|--------|---------|---------|---------|--------|----------|

問 36 貴保育所では**男性保育士**(常勤)が**勤務**したことがありますか。

- |             |                             |              |
|-------------|-----------------------------|--------------|
| 1. 現在勤務している | 2. 過去に勤務したことがあるが、現在は勤務していない | 3. 勤務したことがない |
|-------------|-----------------------------|--------------|

問 37 **男性保育士**が**子育て環境づくり**に与える**影響**について以下をどうお考えですか。あてはまる番号に○をおつけください。

質問項目	思わない	どちらかといえば 思わない	どちらとも いえない	どちらかといえば 思う	思う
1. 保育所で子どもの父親代わりになる	1	2	3	4	5
2. 子どもの身体 <sup>①</sup> の健康増進を図ることができる	1	2	3	4	5
3. 男女の自然な姿を子どもに伝えられる	1	2	3	4	5
4. 保育の新しい技術や知識、企画を導入できる	1	2	3	4	5
5. 母子家庭・父子家庭への支援ができる	1	2	3	4	5
6. 在宅子育て層の支援ができる	1	2	3	4	5
7. 母親に対して仕事と家事育児の両立を支援できる	1	2	3	4	5
8. 父親に対して家事育児への参加を支援できる	1	2	3	4	5
9. 保護者の、育児への意識や自覚を高める親育てができる	1	2	3	4	5
10. 保育理念や目標を確立し、職員をまとめる保育所リーダーになれる	1	2	3	4	5
11. 職場の人間関係を乱さず、協調性を保つことができる	1	2	3	4	5
12. 地域と連携した子育て支援をコーディネートできる	1	2	3	4	5

問 38 では、**女性保育士**が**子育て環境づくり**に与える**影響**についてはどうお考えですか。あてはまる番号に○をおつけください。

質問項目	思わない	どちらかといえば 思わない	どちらとも いえない	どちらかといえば 思う	思う
1. 保育所で子どもの母親代わりになる	1	2	3	4	5
2. 子どもの身体 <sup>①</sup> の健康増進を図ることができる	1	2	3	4	5
3. 男女の自然な姿を子どもに伝えられる	1	2	3	4	5
4. 保育の新しい技術や知識、企画を導入できる	1	2	3	4	5
5. 母子家庭・父子家庭への支援ができる	1	2	3	4	5
6. 在宅子育て層の支援ができる	1	2	3	4	5
7. 母親に対して仕事と家事育児の両立を支援できる	1	2	3	4	5
8. 父親に対して家事育児への参加を支援できる	1	2	3	4	5
9. 保護者の、育児への意識や自覚を高める親育てができる	1	2	3	4	5
10. 保育理念や目標を確立し、職員をまとめる保育所リーダーになれる	1	2	3	4	5
11. 職場の人間関係を乱さず、協調性を保つことができる	1	2	3	4	5
12. 地域と連携した子育て支援をコーディネートできる	1	2	3	4	5

問 39 男性保育士や、保育・育児とジェンダーについてご意見がございましたらお聞かせください。

## VI 最後に、子育て環境作りに必要な保育士養成について伺います

問40 充実、強化の必要性があると思われるのは以下のどの科目でしょうか。あてはまる番号5つに○をおつけください。

1. 社会福祉	2. 社会福祉援助技術	3. 児童福祉	4. 保育原理	5. 教育原理
6. 養護原理	7. 発達心理学	8. 教育心理学	9. 精神保健	10. 家族援助論
11. 小児保健	12. 小児栄養	13. 乳児保育	14. 障害児保育	15. 基礎技能(音楽)
16. 基礎技能(造形美術)	17. 基礎技能(体育)	18. 保育実習(実地実習)	19. 保育実習(事前・事後指導)	20. 保育内容(健康)
21. 保育内容(人間関係)	22. 保育内容(環境)	23. 保育内容(言葉)	24. 保育内容(表現)	25. 女性労働問題論
26. 社会福祉施設運営管理論	27. 地域福祉論	28. 障害者福祉論	29. 公的扶助論	
30. レクリエーション指導法	31. 社会保障論	32. 子どもと自然	33. その他( )	

問41 よりよい子育て環境作りを実現するために、保育士には何が必要と思いますか。あてはまる番号に○をおつけください。

質問項目	必要ない	どちらかといえば 必要ない	どちらとも いえない	どちらかといえば 必要である	必要である
1. 性格・感性(思いやり・優しさ・包容力・まじめ・明るさ等)	1	2	3	4	5
2. 技術・専門知識(環境構成力・音楽造形・遊び展開力等)	1	2	3	4	5
3. 基本的な生活習慣(挨拶・体調管理等)	1	2	3	4	5
4. 熱意(積極性・やる気等)	1	2	3	4	5
5. 公平性・守秘意識(倫理性・道徳性等)	1	2	3	4	5
6. 乳幼児理解(観察力・子どもに好かれる・信頼等)	1	2	3	4	5
7. 事務処理能力(文章力・常識・一般教養・言葉遣い等)	1	2	3	4	5
8. 状況判断能力(臨機応変・柔軟性等)	1	2	3	4	5
9. 研究・自己研鑽の意欲(向上心・自己評価等)	1	2	3	4	5
10. 保護者とのコミュニケーション	1	2	3	4	5
11. 親育て	1	2	3	4	5
12. 保育士としての経験	1	2	3	4	5
13. 職場のチームワーク	1	2	3	4	5
14. 地域・行政との連携	1	2	3	4	5
15. 子育て経験	1	2	3	4	5
16. 子どもや保護者のニーズの代弁	1	2	3	4	5

問42 子育て環境づくりのために保育士養成校に求めることがあればお聞かせください。

この調査に関するご意見やご教示などがございましたら、お書きくだされば幸いです。

本調査結果概要送付の希望について、1または2でお答えください。1の場合にはご住所等をご記入ください。

調査結果概要を	1. 希望する	2. 希望しない
貴保育所名	電話番号 — —	
ご住所〒	E-mail	

ご協力いただき誠にありがとうございました